

(様式2)

平成 25 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100424		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームなかのくち		
所在地	新潟県新潟市西蒲区福島311-1		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/15/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成25年11月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは入居者様の新しい家であり、これまでの生活を継続できるように私たち職員がその方一人ひとりのできる事を発揮して頂けるよう支援をさせて頂いている。日々の会話を大切に、寄り添うケアに努めています。  
今年度よりネイルセラピーに取り組み、認知症改善や歩行状態の維持に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『グループホームなかのくち』は、新潟市西蒲区の田園地域に位置し、四季折々の移りゆく自然が満喫できる。事業所はオフホワイトを基調とした平屋建てで、落ち着いた外観であり、内装も間接照明を使用した温かみのある空間作りがされ、居室は全室トイレ付きの個室になっている等、当ホームよりも前に開設された法人内の複数のグループホームでの気づきやノウハウを活かして造られている。ホームの周りに作られた畑では季節に合わせて様々な野菜作りを行ったり、リビングからすぐに出れるウッドデッキでは、天気の良い日には食事会、夏は家族を招いての花火鑑賞会やバーベキューを開催する等、家族との関係性やこれまでの生活の継続を意識して生活を支援している。

日常のケアにおいては、独自の様式を使用して細やかな記録を行い、利用者の生活の質の向上に活かし、管理者と職員が力を合わせて一丸となって「一人ひとりの想いを大切に共に笑顔で暮らします」という理念の実現に努めたケアを実践している。また、ホームに隣接して本体施設である特別養護老人ホームがあり、研修・防災訓練等の合同開催や緊急時の対応等、密接に連携しながら利用者の生活を支えている。

地域の意見を取り入れる仕組みとして運営推進会議を積極的に活用し、地域や関係者からの意見を運営に取り入れている。また、地域の敬老会に出向き、認知症に関する研修会を行うなど、自らも情報発信を行い、地域の社会資源としての役割を発揮できるよう努力を重ねている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来「一人ひとりの想いを大切に共に笑顔で暮らします」という理念について変更なく、理念の実現に向けて一人ひとりの関わり方や想いを会議や日々の申し送りで話し合い。職員全員で共有に努めている。	事業所理念について毎年度初めに話し合いを行い、共有理解を深めている。平成24年度には、理念の実現に向けて、重点目標をより職員の分かりやすい言葉に変更した。職員は日々のミーティングや申し送りノートなどで、理念に沿ったケアができていたかを確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会の一員として、地域の一斉清掃や沿道の花壇の花植えに参加している。日常的な買い物は近隣のスーパー、お米をJAで購入して活用している。地域のボランティアの方や入居者知人の方から野菜など頂いたり、お話に来て頂いている。	地元のボランティアの訪問や野菜の差し入れなど、地域からの来訪者は多い。また、一方的に支えられるだけでなく、地域活動への参加や地元での買い物、広報誌の回覧を行うなど、積極的に地域との関係作りに取り組んでいる。平成25年度は地元の老人会の忘年会に参加し、グループホームをより理解してもらえるように勉強会を開催した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌やボランティア募集広告を発行して地区に回覧している。ボランティアスクールや学校の体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員の方から頂いた意見を参考にケアの反映させている。	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催している。会議には、家族・地域・行政の代表者だけでなく、同じ地域にある他法人のグループホームの管理者からも出席してもらい、運営状況の報告を行うと共に、多角的な視点からの助言や意見・要望等を得て、サービス向上に活かしている。	今後、開催時間の工夫や会議内容の工夫により、できるだけ多様な立場の方や性別のバランスも考えた参加者の構成が望まれる。様々な視点の意見を取り入れ、サービス向上が図られることを期待したい。また、利用者自身の生活に関わることもあるため、利用者にも参加してもらえる工夫にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員から助言をいただいたり、相談をさせて頂いている。	市の担当者と接する機会は少ないが、市から委託を受けている地域包括支援センターとの連携を密に取っており、運営推進会議にも出席してもらって助言等を得ている。その他にも、地域包括支援センター主催の研修会への参加やボランティアの紹介をもらうなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する中之口愛宕の園と合同の研修会に参加し「身体拘束しないケア」に対して理解を深めている。玄関の施錠は夜間ののみしか行わず、自由の出入りできるようになっている。	法人全体で年1回、事業所内でも年2回、身体拘束に関する研修が行われている。参加できなかった職員には資料を渡したり、申し送りや職員会議で伝達講習を行い、全ての職員の理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされていないように職員同士で声を掛け合い注意を払っている。気になる事があれば、日々の申し送り等で話し合い様に努めている。	管理者や虐待に関する研修に参加した職員が講師となって、定期的に年1回は必ず虐待に関する研修会を実施している。普段の業務の中でも、お互いに気になる場所があれば、すぐに声をかけ合う等、日頃から虐待防止の実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見制度を利用されている。制度を活用する際に、勉強会を行った。今後も学ぶ機会が必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に自宅訪問やグループホームに来て頂き、疑問点や不安感が出来るだけ無いように説明させて頂いている。入居前に何度もお越し頂き雰囲気を感じて頂き、いつでも相談して頂けるように説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。設置以来意見等の投稿を頂いた事がない。夏の花火祭り、敬老会、新年会など行事の折には、ご家族にも参加して頂き、家族と職員が意見交換できる機会を設けている。ご家族から頂いた意見をケアに反映している。	利用者からは普段の関わりの中での意見だけでなく、生活の様子をこまめに観察し、希望や要望をくみ取り、支援に反映するようにしている。家族からは、意見箱や面会・電話連絡時、行事等の際に、意見や要望が得られるように努めている。	率直に意見を言える人、言えない人等様々な利用者や家族がいることを考慮し、今後、更に意見が言いやすい環境を作るためにも、意見を表出する方法やルートが複数設定され利用者・家族が選択できるような仕組みの検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のグループホーム会議や中之口愛宕の園との合同の会議を行っている。日々の申し送り時や申し送りノート、個別の職員との面談等を活用して意見交換を反映させている。	隣接する特別養護老人ホームとの合同会議やホームの職員会議、申し送り等で職員からの意見や提案を募っている。会議で出された職員からの様々な意見や提案は、内容を検討の上で議事録に残し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課制度、キャリアパス制度、メンタルヘルスケア相談室など整備させている。自己研鑽の場の提供や異動、勤務地希望等の要望にも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において職員の段階、職種、経験年数に応じて、内部研修、外部研修を実施している。また、働きながら勉強できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他法人の管理者の方が委員として参加して頂いており、意見交換を行っている。法人内の地域密着型事業所で定期的に会議、見学会等を行い情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけご本人の要望や困っている事に耳を傾けている。また、入居するまでに何度も遊びに来て頂き、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に自宅訪問やグループホームにお越しいただき、確認させて頂いている。ご本人のいる前では話しにくい内容であれば、日を改めてお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の問い合わせやの想いなど本人、家族の話に耳を傾け、本人、家族にとって最善の対応ができるように、具体的な話し合いに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある「共に笑顔で暮らします」という事を大切に、一方的なケアにならないように、互いに助け合い、寄り添って生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、家族との距離が離れないように、入居される前から家族の協力が必要な事を説明している。入居者にとって家族は、精神的な支えであること、家族と共に支えていきたい事をお伝えしている。面会時には、日常の出来事を伝えて喜びも悲しみも苦しみも共有できるような関係性が築けるように働きかけている。家族参加の行事を行い、繋がりが途切れないように努めている	花火鑑賞会等、家族も参加できる行事を企画したり、受診や買い物等、家族からの協力を依頼し、本人と家族の関係を維持しつつ、家族と共に本人を支えて行けるように努めている。ホームの取り組みの甲斐もあって、面会が少なかった家族の行事参加率が増えた実績もある。今後は、県外や海外にいる家族にもホーム内の生活の様子が伝えられるように、ブログ等の開設も予定している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪れた際は、ゆっくりと過ごして頂ける様に配慮している。今までの関係性が途切れる事のないように、お店や美容室、友人宅に気兼ねなく行けるように支援させて頂いている。	「あなたの想いシート」というアセスメント様式を活用し、馴染みの人や場所に関する情報を把握している。馴染みの美容室への送迎やヤクルト宅配の利用、友人に会いに行く支援等、入居前からの生活の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重して、気持ちよく楽しく過ごして頂けるに、職員は必要以上に干渉せずに、関係性が続けられるような橋渡しの役割を行っている。気の合う入居者同士が外出できるように支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方でも関係性を大切にしている。グループホーム内で看取らせて頂いた方の一周忌に伺わせて頂く。お茶を飲みに来て頂けるように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたの想いシート」でこれまでの習慣や得意な事、何と呼ばれたいか、行きたいところなどお聞きし、暮らしの希望や意向を把握したり、日常的な会話の中から要望や意向をくみ取れるように努めている。内容等を経過記録に残し、申し送り等で職員間で情報の共有に努めている。	入居の前後で、センター方式のアセスメント表を基に作成した独自のアセスメント様式を活用し、本人の希望や意向の把握に努めている。アセスメント内容は3ヶ月に1回定期見直しを行い、毎年1回更新している。アセスメントを見直して得られた新たな情報は、随時職員間で共有されている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお聞きした24時間シートを作成して把握に努めている。	入居時に、本人や家族、担当居宅介護支援専門員、利用していた事業所等から、これまでのサービス利用の様子や暮らしの様子、希望等を聞き取っている。必要時は、入居前から何度も本人宅にうかがい、情報が得られるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の経過記録や出勤職員全体の申し送り等で状態の変化や様子を職員間で情報の共有している。また、必要に応じて医療連携体制にある看護師に様子を伝え状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、職員間で意見を出し合い作成時に反映している。現状に即したかわりが出てくるように都度話し合いを行っている。	本人や家族の意向・希望、職員が日々の関わりから把握した情報や気づきなどを介護計画に反映させて作成している。サービス実施記録も介護計画に基づいた記録ができるように工夫されており、効率よく、細やかな観察記録を実施している。	今後、利用者本人がより主体的な生活が過ごせるように、本人にもサービス担当者会議に参加してもらうなど、本人を中心とした話し合いができる環境作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫など経過記録に残すなどと共に、口頭で申し送るようにして、情報の共有に努めている。モニタリング・プラン更新時に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に添えられるように柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や郵便局、金融機関、入浴施設、美容院等希望に応じて活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望されている方は、継続して受診して頂いている。緊急時にも受診できるように、本人、家族の意向も踏まえながら協力医からみて頂いている。	入居前からのかかりつけ医を継続し、家族による受診支援を基本としている。受診の際には、生活状況をまとめた連絡票を家族を通じて医師に提供し、適切な医療が受けられるように支援している。家族が同行できない場合や緊急時はホームが対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にある看護師と日常の体調管理や相談を行うとともに、夜間のオンコール対応を行っている。様々な病状に応じて看護師に相談することで適切な処置、指示を貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、ご本人の意向を踏まえ対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り、本人、家族の希望に添えられるように努めている。事業所でできるところ、できないところを協力医、看護師、ご家族の意向も踏まえて対応している。	できる限り望むケアが実施できるように、入居時や重度化が予測される早い時期から、主治医、家族、ホーム職員がその都度話し合いをしている。病状説明等は主治医から話をしてもらうようにしている。委託医による看取りケアの研修を開催する等、最後までホームで暮らしたいという本人・家族の思いに添えられるよう努めている。今まで3名の看取り介護の実績がある。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員により救命講習を2年に1回全職員が受講している。グループホーム内で赤十字救命救急講習の勉強会を実施している。	全職員が定期的に消防署で救命救急講習を受講しているほか、重傷事故発生に備えて、赤十字救命救急講習の復命研修をホーム内で行っている。また、日中・夜間の急変・事故発生時の対応マニュアルも整備されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練時に地域の消防団の方にも参加して頂き、避難訓練を実施している。	隣接する特別養護老人ホームや地元消防団と協力しながら、日中・夜間を想定した防災避難訓練を実施している。地域の防災避難訓練にも参加し、災害時の地域との協力関係の構築にも努めている。	近隣住民にもホームの建物構造や利用者の様子などを知ってもらい、有事の際に協力してもらえるよう、近隣住民にも参加してもらう避難訓練を実施してはどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分だったら自分の家族だったらと常に考え、一人ひとりの尊厳や誇りを傷つけないように親しみを込めた言い方の中でも礼儀を忘れずに対応している。	法人の全体研修で定期的に倫理や接遇、プライバシーに関する研修が行われている。排泄支援の場面でも、本人の羞恥心に配慮したさりげない誘導方法に努め、職員同士で情報交換する際も、固有名詞を使わずアルファベットや数字を使って伝達するなど、工夫がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の意向を踏まえ、実施している。言葉が掛けもご本人が決定できるように一つ一つの支援時に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた個々の希望のに沿った支援を心がけ実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた床屋、美容室を利用している。衣類もご本人の好みに応じて、選んで頂けるように支援している。身だしなみや化粧が出来るように、物品の準備等支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味付けや嗜好を伺いできるだけ希望に添えられるように提供している。食事作りなどそれぞれの得意とする所を見極めそれぞれが主体になるように支援している。	食事やおやつはできる限り手作りにこだわり、準備や片付け等も利用者と一緒にを行うように努めている。食事の味付けや具材の切り方・大きさ等について利用者と相談しながら作業を行っており、食事づくりは利用者から力を発揮してもらう場面となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録を参考に一人ひとり必要な栄養素が確保できるように努めている。メニューは職員が栄養バランスを考え作成している。また、その都度入居者の要望などに添えられる様に務めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりの状態に応じて。言葉掛けやお手伝いを行っている。義歯も週2回洗浄剤を使って食毒している。コップ、歯ブラシも毎週1回消毒して感染症予防に努めている。必要に応じて歯科受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて、言葉かけや見守り、付き添いなど行っている。日中は全員トイレで排泄を行っている。入居者の状態に応じながら、紙パンツ、布パンツ等自立に向けた支援等対応している。	独自の記録様式を使用して細やかな観察を行い、利用者一人ひとりの排尿パターンを把握している。観察記録を基に、日中は布パンツを使用したり、誘導の回数を利用者一人ひとりに応じて変更する等少しでも自立した排泄に近づけるよう工夫をしており、状態が改善した事例もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時と15時に水分補給を行い、1日の食事の中に乳製品や果物、海藻類が入るように献立を考えている。また、お茶以外の物も用意してできるだけ水分補給できるように心がけている。それでも排便が困難な方には、かかりつけ医に相談して薬等で調整して対応している。それでも排便が困難な方には、医療連携体制の看護師に相談して、摘便で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めていない。希望や状態に応じて1～3日おきに入浴もしくは清拭を行っている。夜間浴を希望される方がいないため、夜間浴は実施していない。	基本は午後の入浴となっているが、入浴日は特に決めておらず、希望によっては毎日の入浴や時間の変更にも対応するようにしている。これまでの暮らしについて把握した情報に基づき、利用者一人ひとりの希望や意向に応じた入浴ができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のそれぞれの希望される場所(居室、リビング)で休んで頂いている。寝具は1週間に1回は交換させて頂いている。汚れた際はその都度交換させて頂いている。季節や室温、体調に応じて掛け物調整やお部屋の温度管理に気をつ行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は一覧化いつでも確認できるようにファイルに綴じてある。内服薬の変更については、経過記録、申し送りノート、口頭で確認している。必要に応じて副作用についても周知している。服薬状況は、チェック表を用いて必要に応じて時間記入するなどして把握している。当日出勤している職員には口頭でも伝えて情報の共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意な事、興味のあるものなど過去の生活歴やお話から見つけ出し、役割を担って頂いている。また、散歩や嗜好品のタバコなど職員が付き添い吸って頂いている。散歩や買い物の付き添いなどで気分転換等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物は状態に合わせて支援している。また、ご家族にも協力を仰ぎながら希望に添えられるように支援している。	利用者の希望にあわせて一緒に買い物に出かけたり、季節に合わせた外出行事を行っている。正月やお盆、誕生日等には家族にも外出支援の協力をしてもらおうなどしており、入居をきっかけに家族との交流が増えた事例もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望、能力に応じて、お金を自己管理され、郵便局や金融機関に行き自分で引き出している方もいる。その他の方は、事業所で管理して必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙があった場合はその都度、支援させていただいている。電話をかける際も、ご家族に協力して頂き支援している。遠方のご家族から定期的に季節の絵手紙を送って頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有スペースに花やグループホームで採れた野菜を飾り、季節を感じて頂けるように配慮している。ウッドデッキで花や野菜を栽培して、リビングの中から育てている様子が見られるように配慮したり、ウッドデッキの野菜を収穫して頂いている。入居者同士が気兼ねなく過ごせるようしつらえを検討している	リビングや廊下等には過度に写真やポスターなどを掲示せず、あくまでも一般家庭の雰囲気を大事にしている。共有スペースには、直接ウッドデッキに出られる大きな窓があり、四季折々の風景の移り変わりが感じられるようになっている。暖かい時期には、そのウッドデッキで食事をしたり、家族を招いての交流会の開催等をしている。事業所内の照明にもこだわっており、温かみのある色合いのものにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ソファなど個々人が好きな場所で過ごして頂けるように配慮している。たためみコーナーが活用できていない。検討課題となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものを持って来て頂き、居心地のいい空間になるようにご家族と相談している。入居者の状態に合わせたしつらえなど配慮している。	居室は全室個室でトイレが完備されている。家具等の身の回り品に関しては、本人が一番使いやすい物、好んで使用してきた物を持ってきてもらうようにしている。また、使い慣れた家具や道具の他にも個人の趣味・興味のあるものが置かれ、一人ひとりの好みに合った居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じて生活しやすい環境にさせて頂いている。本人のできる事安全に行って頂けるように、障害物の配乗、夜間の転倒防止のため、足元灯の設置や常夜灯の電球の交換など環境整備に努めている。		